

令和元年度 佐賀県立高志館高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「高志深心」の理念を指針として、「安全安心」をキーワードに、「マナーアップ高志館」「為して学ぶ高志館」「夢を叶える高志館」の教育3本の矢のもと、学ぶ意欲の向上やマナー意識の定着に向けた指導を徹底する。</p> <p>また、さまざまな教育活動をおとして、「不易」の部分である「人間力」を向上させると共に、専門教育の諸問題に対応した「課題解決力」を身につけさせ、地域から信頼される学校づくりを押し進める。</p> <p>(1)高い志を持ち更なる成長を目指す生徒の育成                  (2)豊かな心の育成                  (3)基本的な生活習慣の確立                  (4)学ぶ意欲を向上させる                  (5)高志館高校が目指す学校像                  ①生徒・教職員が誇れる学校 ②地域に必要とされる学校                  ③保護者に信頼される学校 ④中学生在が魅力を感じる学校                  ⑤情報をタイムリーに発信する学校                  ⑥授業と部活動に全力投球する学校</p>	<p>○生徒が高い志を持って自らの可能性を信じ、更なる「成長」を目指すよう、授業と部活動の充実にも努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。</p> <p>○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを理解させ、さまざまな教育活動をおとして社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。</p> <p>○先が見えない時代にあっては、常に考え・課題を解決する能力が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、課題や責任を果たさせる中で自信を芽生えさせ、自立しようとする気持ちを育む。</p> <p>① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実                  ② 学科プロジェクトの推進                  ・園芸科学科 … 都市近郊型農業プロジェクト                  ・環境緑地科 … 地域資源活用プロジェクト                  ・食品流通科 … 学校ブランド商品の開発プロジェクト                  ③ 学力向上                  ④ 希望進路実現100%の達成                  ⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化                  ⑥ 健康維持の推進</p>

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
①危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立ができていますか。	・全体の出席率99%以上、延べ遅刻者数前年比2割減を目指す。 ・身だしなみやマナーを意識した行動を実践する生徒の割合を80%以上にする。 ・問題行動発生件数"0"を目指す。	・学年、学科間の連携と情報共有により、組織的な指導体制を確立し、欠席・遅刻者の事後指導の徹底を図る。 ・全職員による登校指導(当番制)を行い、職員からの積極的な声掛けにより、生徒とのコミュニケーションを図るとともに、マナーアップに向けての注意喚起も行う。
	●いじめ問題への対応	・生徒の動向の変化をきめ細かく観察し、迅速かつ適切に対応し、真の解決に結びつけることできたか。 ・思春期の悩みへの向き合い方を指導できたか。	・適正なSNS使用のあり方についての指導を徹底し、情報モラルの育成に取り組む。 ・いじめは絶対許されないという意識を生徒一人一人に徹底させる。	・「いじめ根絶のための標語」を全生徒で取り組み、校内の各所に掲示することで、いじめ根絶に対する意識を常に持たせるようにする。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係専門機関と連携し、教育相談の充実を図る。 ・教育相談の職員と連携を密にとり、問題解決に向け日頃より情報交換を行う。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理意識が育成されたか。	・朝食をきちんと取り健康的な食習慣を確立するために朝食の喫食率を80%以上にする。	・保健だよりを毎月発行し、健康に関する意識の醸成を図る。 ・朝食アンケートを実施し、朝食を摂ることの大切さを理解させる。
学校運営	○危機管理意識の向上と安全対策	・安全管理の意識を持って生徒指導にあたっているか。 ・現場に即した緊急マニュアル策定をしているか。	・危機管理マニュアルの見直しと全職員への危機管理体制の周知徹底を図る。 ・講話や研修会を通して、危機管理意識の醸成を図る。 ・安全管理業務を計画的に実施する。	・現状に即した危機管理マニュアルの改訂と伝達講習会の導入。 ・毎学期の自転車点検の実施。 ・毎学期の安全点検の実施。 ・交通講話や防犯講話等を通して、危機管理や防犯意識の向上を図る。
②学科プロジェクトの推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○プロジェクト学習の推進	・生徒、教員が共に積極的に課題研究やプロジェクト学習に取り組む、生徒自らPDCAサイクルを意識した活動が実践できたか。	・プロジェクト学習に学科全体で取り組む。 ・県連大会や各種コンテストに積極的に出場し、入賞を目指す。 ・生徒主体の研究活動を推進する。	・プロジェクト学習の充実を図るため、県連大会前の事前検討会を実施し、改善課題を整理し、まとめの内容に反映させる。 ・発表後の反省・検討会を実施し、次年度に向けた対応を組織として取り組む。
	○専門教育の充実	・魅力ある専門教育の実践と生徒が自ら学べる実験実習等を導入することができたか。	・専門教科に対する興味関心を80%以上にする。	・専門性を高めるために、各種専門分野から外部指導者を招聘し、直にプロの知識や技術に触れることで、生徒の興味関心を高めるとともに、実験実習の充実を図る。 ・新たな技術分野を積極的に専門教育へ取り入れることで、生徒の興味関心を更に高める。

③学力を向上させる				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力が育成できたか。	・学力向上プテテストの平均点70点以上を目指す。	・プテテスト実施にあたって、学年団を中心に事前事後指導の徹底を図る。 ・時間を守る「チャイムtoチャイム」の授業実践と定着を図る。 ・民間の試験を活用した学びの基礎診断を活用しながら自主学習指導と定着を図る。
学校運営	○教職員の資質向上	・授業力の向上と授業改善が図れたか。	・ICT利活用の推進を積極的に行い、教員のICT活用能力を90%以上に高める。	・ICT校内授業公開週間を学期に1回設定し、ICTを積極的かつ効果的に活用する意識を高めるとともに、他の教員の授業を積極的に参観することで、自身の利活用能力を高める。

④希望進路実現100%の達成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・個々の年間目標を設定し、自らの志を達成するための行動・実践に結びつけることができたか。	・本校で学ぶ意義や目標をしっかりと理解して、自分や周囲に対して何が出来るか志を意識した行動を実践する。	・全校生徒に対し、年度初めに課題・目標を設定させ、クラスに掲示することで、常にそれを意識した行動に繋げ、年度末に反省を行い、自分を高める活動に活かす。
	○進路実現	・生徒の希望進路の実現は達成できたか。	・生徒の進路実現100%を継続する。 ・生徒の第1希望での進路決定率を高める。	・進路講演会、ガイダンス等による進路啓発 ・全職員による企業訪問、職場開拓と面接指導の実施。 ・学年、学科、教科と連携した小論文、面接指導の実施。 ・マナー講座、マナー検定への積極的な取り組み。
	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進が図られたか。	・資格取得、インターンシップの充実。	・学科の専門性を生かした検定・資格取得のための指導体制を確立し、受験者数の確保と合格率の向上に取り組む。 ・就労意識を高めることを目的としたプロフェッショナルインターンシップの実施。 ・ものづくりマイスター制度を利用した専門技術指導の実施。

⑤生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・生徒会活動、農業クラブ活動を通して地域に貢献しているか。 ・コミュニケーションは「挨拶から」を生徒主体の取り組みとして実践できているか。	・自発的な地域社会貢献活動を推進する。 ・「ごみゼロ運動」や「資源リサイクル活動」を推進する。 ・全国高総文祭開催に向け、「おもてなし」の心で接することができるよう意識の向上を図る。	・JRC部や生徒会、農業クラブを中心に、生徒へのボランティア活動の斡旋を行う。 ・ごみの分別や私物のごみの持ち帰りの呼びかけを行う。 ・地域交流で、相手の立場になった接し方や挨拶を身につけさせる。
	○生徒会活動	・部活動の活性化は図れているか。 ・生徒会の自主的活動が推進されているか。	・部活動加入率100%を目指す。 ・多くの部活動で、県総体や新人戦をはじめ、多くの大会での入賞を目指す。	・入部状況を確認し、途中退部した生徒等への再入部や別の部活動への入部の呼びかけなどを積極的に行う。 ・部活動の効果的な指導方法の研修会や情報交換会を行うことで、体力、技術力の向上に生かす。
	○農業クラブ活動	・農業クラブ活動をととして、専門教科に関する知識・技能の向上を図ることができたか。	・農業クラブ県連大会で、個人・チームを含め、5部門以上での最優秀、優秀等の入賞を目指す。	・校内での選考方法を改善することで、早い段階での指導体制を確立し、内容・技術の向上に生かす。 ・学科の協力、連携体制をしっかりとつくる。

⑥健康維持の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・学校行事の精選と効率的な運営がなされたか。	・部活動休養日と学校行事の効率的な展開の工夫改善。 ・定時退勤推進日の効果的な運用。 ・年次休暇等を取得しやすい環境改善。	・平日の部活動休養日と定時退勤推進日を連動させることにより、休養日と顧問の定時退勤がしやすい環境を確保する。 ・定期考査の午後に会議や研修を入れず、年休が取得しやすい条件をつくる。 ・会議や研修を組み合わせることで、効率的に行事を遂行する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	・校外、地域へ専門高校の魅力を発信できたか。	・積極的な学校便りの発行と学校HPの更新を行い、情報発信に努める。 ・学校開放行事を積極的に推進することで、地域と生徒の交流活動を充実させ、生徒の顔が見える教育を展開する。 ・体験入学参加者数240人以上を目指す。	・学校だよりを年10回以上発行するとともに、学校HPの更新は月2回以上を目指す。 ・文化祭や生産物販売、開放講座、幼小中交流活動等を行うことで、地域に根ざした学校づくりを行う。 ・体験入学の開催時期や体験学習内容、PR方法を工夫し、魅力を感じる内容にしていこう。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目